

山形県における水稲直播栽培農家の導入理由

—直播栽培農家アンケート調査から—

遠 藤 宏 幸

(山形県立農業試験場)

Reasons for Introduction of Direct Sowing of Paddy Rice in Yamagata Prefecture

—On basis of the questionnaire for farmers—

Hiroyuki ENDO

(Yamagata Prefectural Agricultural Experiment Station)

1 は じ め に

稲作の一層の低コスト化, 省力化が望まれ, 直播栽培の技術開発とその普及が進められているが, そのなかで平成8年(1996年)に山形県の水稲直播面積は前年の倍の約400haと大きく増加した。今後の普及を進めるうえでも, 特別調整水稲カウントの実施の影響も含めてその導入理由を明らかにするため, 直播栽培実践農家の導入理由についてアンケート調査を行いその内容を整理した。

2 調査方法及び調査対象

山形県農業共済組合連合会の共済引受農家名簿より, 特別調整水稲カウントを受けた直播栽培農家542戸への郵送調査を行った。有効回答率は44%(239名)である。

3 調査結果及び考察

(1) 直播栽培農家の特徴

直播栽培農家の特徴として, 県の中でも水稲面積の大きい経営が多い。直播栽培は比較的規模の大きい経営を中心に多数の経営類型に導入されている。直播面積は60a以内が66%であり, 経験年数も1年が半数を占め, 平成8年に試験的に導入した経営がかなり多いと思われる。

経営類型は基幹男子専従者のいる複合経営が最も多いが(45.2%), 兼業等で基幹男子専従者のいない, あるいは労働力の少ない複合経営においても少なからず直播が取り入れられている(表1)。

(2) 直播栽培に注目した理由

直播栽培に注目した理由は, 「新しいことにチャレンジ」「労力不足」「減反強化」「機械設備の投資抑制」「米価の下落」という回答の割合が大きく, 直播栽培という新しい技術と低コスト・省力化に強い関心が寄せられたと思われる(表2)。

(3) 直播栽培導入のねらい

直播栽培導入のねらいは, 「現状維持で水稲作業軽減」が最も多く, 全体的な傾向として必ずしも経営の拡大志向ではないが, 「複合部門に力を入れる」「新しい技術の修得」等意欲的な農家も多い(表3)。

導入のねらいと経営類型, 水稲面積, 労働力, 経営主の年齢でクロス集計を行った。直播栽培導入のねらいが水稲あるいは複合部門の拡大志向であるのは, 基幹男子専従者のいる経営でその割合が大きい。水稲の規模拡大としているのは, 水稲の作付面積が大きく経営主が比較的若い経営に多い。複合部門に力を入れているのは, 水稲の作付面積が小さく経営主の年齢が比較的高いが労働力の多い経営に多い。

一方, 現状維持で水稲作業軽減のためとしている現状維持志向の導入は, 基幹男子専従者のいない経営で割合が大きい。また, 直播が特別調整カウントされる減反対策をねらいとしたのは, 平成8年に直播を導入した水稲専作経営に多い(表4)。

表1 経営類型

区 分		件数	労働力		水稲作付面積					不明
			300日 未 満	300日 以 上	50a 以下	51～ 100a	101～ 200a	201～ 500a	501a 以上	
基幹男子専従者あり	水稲専作	63(26.4%)	15	48	2	1	4	32	21	3
	複 合	108(45.2%)	9	99	2	8	12	54	28	4
	小計	171(71.5%)	24	147	4	9	16	86	49	7
基幹男子専従者なし	水稲専作	27(11.3%)	18	9	3	1	6	14	3	
	複 合	41(17.2%)	33	8	1	7	10	17	1	5
	小計	68(28.5%)	51	17	4	8	16	31	4	5
合 計		239(100.0%)	75	164	8	17	32	117	53	12

注. ここで基幹男子専従者とは経営主の年間労働日数が150日以上であるものとした。

労働力は雇用を含めた年間の合計日数(人日)である。

表2 直播に注目した理由(3つまで複数回答)

①経営類型別 (%)					
項目	基幹男子専従者あり		基幹男子専従者なし		全体
	水稲専作	複合	水稲専作	複合	
新しいことにチャレンジしたい	45.2	51.9	48.1	37.8	47.4
労力不足	27.4	41.7	37.0	45.9	38.0
減反強化	45.2	32.4	44.4	21.6	35.5
機械設備の投資抑制	17.7	34.3	14.8	45.9	29.5
米価の下落	17.7	26.9	11.1	29.7	23.1
ゆとりを作りたい	11.3	17.6	25.9	27.0	18.4
若い人に魅力ある農業をつくりたい	21.0	12.0	14.8	13.5	15.0
移植による規模拡大の限界	21.0	15.7	7.4	8.1	15.0
稲作の先行き不安	8.1	10.2	7.4	16.2	10.3
先駆者の存在	3.2	6.5	18.5	10.8	7.7
関係機関からのすすめ	3.2	6.5	3.7	8.1	5.6
その他	11.3	10.2	7.4	8.1	9.8

②年齢別 (%)					
項目	40歳以下		41~50歳	51~60歳	61歳以上
	全体	全体	全体	全体	全体
新しいことにチャレンジしたい	59.4	44.2	47.2	44.1	47.4
労力不足	46.9	33.6	43.4	38.2	38.0
減反強化	25.0	37.2	39.6	32.4	35.5
機械設備の投資抑制	31.3	31.9	30.2	20.6	29.5
米価の下落	28.1	27.4	13.2	20.6	23.1
ゆとりを作りたい	12.5	13.3	18.9	41.2	18.4
若い人に魅力ある農業をつくりたい	6.3	9.7	22.6	29.4	15.0
移植による規模拡大の限界	9.4	18.6	13.2	8.8	15.0
稲作の先行き不安	6.3	10.6	13.2	8.8	10.3
先駆者の存在	6.3	5.3	9.4	14.7	7.7
関係機関からのすすめ	3.1	5.3	11.3		5.6
その他	12.5	11.5	7.5	5.9	9.8

注. 各回答項目について、回答割合が全体と比較して10ポイント以上大きい部分をマークした。

4 ま と め

直播栽培の導入は、農業者の新しい技術への高い関心からなされているということが特徴のひとつとして挙げられる。そして低コスト・省力化による規模拡大の手段として導入が推進されている直播栽培であるが、規模拡大志向の

表3 直播をはじめた主なねらい (%)

項目	基幹男子専従者あり		基幹男子専従者なし		全体
	水稲専作	複合	水稲専作	複合	
現状維持で水稲作業軽減	22.0	22.9	40.7	54.1	29.8
複合部門に力を入れる	11.9	33.3		13.5	20.6
新しい技術の修得	15.3	16.2	7.4	8.1	13.6
減反対策	23.7	5.7	29.6	8.1	13.6
水稲の規模拡大のため	11.9	11.4		2.7	8.8
若い人に魅力ある農業にする	6.8	4.8	11.1	8.1	6.6
その他	8.5	5.7	11.1	5.4	7.0

注. 各回答項目について、回答割合が全体と比較して10ポイント以上大きい部分をマークした。

表4 直播導入ねらいの特徴

導入ねらい		特徴	
規模拡大志向	水稲の規模拡大のため	水稲面積	大
		年 齢	低
	複合部門に力を入れる	水稲面積	小
		年 齢	高
現状維持志向	新しい技術の修得	年 齢	低
	減反対策		
	現状維持で水稲作業軽減	水稲面積	小
		年 齢	高
	若い人に魅力ある農業にする	年 齢	高

ある経営だけではなく、現状維持を望む経営においてもそのニーズは大きいということが分かる。一戸当たりの直播栽培面積が小さい現状では試験的導入の意味合いが強いが、その導入理由は水稲規模、労働力、年齢といった経営タイプにより違いが見られる。今後、直播栽培技術の開発及び普及にあたっては、これらの点に留意する必要がある。